令和２年度　川北町立川北小学校　学校評価　期末報告

		評価項目	具体的取り組み	評価指標	達成度判断基準	備考	中間評価		12月評価		2学期までの成果と課題	3学期・次年度へ向けての改善点
1	①組織的な学校運営（教職員の参画意識の高揚）	**＜学力向上ロードマップの組織的な取組＞** 主任間の連携による運営会議の活性化と組織活動の改善を進める。	学校評価計画と学力向上ロードマップを表裏一体のものとし、運営会議での主任間の意見交流を積極的に行い、組織的計画的な取組の検証、改善を進める。	【満足度指標】 学力向上ロードマップに基づき、全職員が学校経営方針の具現化に向け、積極的に組織運営に携わって取組の改善を進めている。	学力向上ロードマップに基づいて積極的に分掌業務に取り組み、具体的な改善を進めている教師の割合が A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：校長、教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	B	100% （但し4＜3）	A	100%	運営委員会で確認された月ごとの指導の重点をロードマップ上に当てはめ、各部ごとに主任がさらに具体的な指示を出して積極的に主導することで、職員一人一人が主体的に業務を遂行する組織運営が行えた。	ロードマップは随時更新し、担当者が代わっても業務が滞らぬよう継続していく。個人の分掌にとどまらず、部内での業務の連携や各部間の連携をはかり、相互の業務内容を理解することで更に機能的な組織運営が図れるよう、サーバー内の情報の機能的な管理と共有を進め、業務改善も進めていく。
2		**＜チーム川北を実現する校風の醸成と人材育成＞** 全職員が若手教員早期育成プログラムに参画することで、それぞれのステージでの実践的な指導力の向上を図る。	若手教員早期育成プログラムにおける「年間計画」に基づき、全員が日常的な指導に関わり、取組の充実と検証を進める。	【満足度指標】 若手教員早期育成プログラム「年間計画」及び「日常的指導」に積極的に参画し、確実な取組が進められ、実践的指導力が向上している。	若手教員早期育成プログラムに積極的に取り組み、実践的指導力を向上させた教師の割合が A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	B	100% （但し4＜3）	A	100%	若手のセルフチェックシート（9月中間期評価）を踏まえて、各月の全体研修の内容を、優先順位の高いものをできるだけ優先して研修を行った。日常の取組は、低中高学年それぞれの部会が機能するよう、必要なテーマや指導法を共通理解し、隙間時間を無駄にしないよう、できるだけの取り組みを進め、若手の好きラップを図ることができた。	指導力や事務処理力を高める効果的なOJTを適宜行えるよう町内各校の実践を共有するなどの工夫をしたい。また、若手からのアウトプットの機会も計画的に実施・活用し、研修内容の深化と次年度の実践へとつなげる。 さらに、より効果的で負担感の少ないプログラムの検討を進める。
3		**＜カリキュラマネジメントの充実による業務改善の推進＞** 教育活動の質の向上を図るためのカリキュラムマネジメントの充実を、業務の効率化に繋げる。	教科等横断的な視点で教育活動の見直しと改善を図り、ゲストティーチャーを呼ぶなど教育効果を一層高める工夫をすることで、業務の効率化を進める。	【満足度指標】 カリキュラムマネジメントの充実に積極的に取り組み、教育活動の質の向上が図られ、業務改善が進んでいる。	教育効果を高める工夫を図り、カリキュラムマネジメントを充実させることで、業務の効率化を進めた教師の割合が A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	B	93.8% （但し4＜3）	B	100% （但し4＜3）	新学習指導要領の目指す目標・内容に沿って、カリキュラムマネジメント意識が高まるよう、また実践が進むよう、全職員で6年間を見通した児童像を共有し、学習体系の確立を進めてきたが、十分な実践を積んだとはいえなかった。	教育活動の質の向上を図るためのカリキュラムマネジメントの充実が、業務の効率化に繋がるよう、各部がロードマップ上で検討した内容を当てはめながら、職員一人一人が主体的に業務を遂行するように組織運営を進める。
4		**＜高い危機管理意識に基づく安心・安全な学校づくり＞** 教職員のあらゆる危機管理意識を高め、安心・安全な学校づくりを進める。	危機管理マニュアルの確実な取組と検証を進め、全職員の危機管理意識の向上を図る。	【成果指標】 危機管理マニュアルに基づき、指導や訓練が確実に取り組まれている。	危機管理マニュアルに基づき、確実に指導と訓練に取り組んだ教師の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	A	100% （4＞3）	A	100%	今年度はとりわけ家庭や地域での児童の安全意識が低下したような行動が散見された。交通安全や地域社会でのルールとマナーも機会を捉えて学級や学年の指導の中に入れることで、危機対応力を高めてきた。	職員に対する校内での事故対応訓練や、避難訓練の指導についての共通理解は計画的に行えているので、児童の安全意識を向上させるための取組を日常的に継続する。
5	②確かな学力の育成（考える子・わざをみがく子）	**＜主体的・対話的で深い学びのある授業づくり＞** 授業改善を図り、授業の設計力・コーディネート力を高める。	日々の教材研究に努めるとともに，校内研修会の充実を図り授業改善を推進する。	【満足度指標】 教師はねらいを明確にもち、教材研究を行い、主体的に取り組める授業展開を工夫している。	ねらいを明確にした授業づくりに取り組んでいる教師の割合 A：85%以上　B：80%以上 C：75%以上　D：75%未満	主担当：研究主任 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	B	100% （但し4＜3）	A	100%	2学期は、「進んで自分で考える児童の姿の育成」を目指した授業作りに重点を置き、授業改善に取り組んだ。部会授業の実施に伴い、学年間、部会間での教材研究も積極的に行われた。また、児童の話す・聞く意識の向上を図るために、6年生の授業を下級生が見る機会を設け、学習への取り組みへの意識付けを図ることができた。	高まりつつある児童の学習意欲を確かなものにするとともに、次の学年に向けた学習の取り組み方についての指導を行っていく。また、部会間での積極的な教材研究を継続し、授業改善の取り組みを推進していく。
6		**＜効果的なICT活用＞** 学習を深めるための手立てとしてICT機器を有効に活用する。	機器の使い方を兼ねた研修を行い、授業を充実させる。	【満足度指標】 教師は、ICT機器を活用し、授業展開を工夫している。	ICTを効果的に活用した授業に取り組んだ教師の割合 A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	主担当：研究主任 評価方法：教職員アンケート 実施時期：7月、12月	B	100% （但し4＜3）	B	100% （但し4＜3）	PC機種変更による新たな学習ソフト活用に向けての教職員向けの研修を実施した。また、授業では積極的なICTの活用は継続的に行っている。	クロムブックの操作に関する研修と学習アプリに関する研修を行い、次年度に向けてのギガスクール構想の実現につなげていく。
7		**＜知識・技能の確実な習得＞** パワーアップタイムやスモールステップテスト等を充実させ基礎基本の定着を図る。	計画的にパワーアップタイムを行うとともに、授業の中のスモールステップテストで基礎学力を積み上げていく。	【成果指標】 単元末テストにおいて、国語科の言語、算数科の知識技能に関して、児童は確実に基礎学力を定着させている。	単元末テストにおいて、国語科・算数科ともに80%以上を達成した児童の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教務主任 評価方法：得点集計 実施時期：7月、12月	B	85.6%	B	89%	1学期に引き続き、国語科や算数科においては、指導要領に基づいた指導事項を確認しつつ基本的な知識・技能の学習を行った。授業やパワーアップタイムで学習することで、本来の計画まで単元学習を行うことができた。1学期よりも習熟する時間がとれたことにより、基礎基本の力が身についてきた。また、学力調査の分析を基に授業改善を進めたり、基礎基本の定着や活用力に特化した川北道場を随時開いたりした。	引き続き基本的な知識・技能の習熟に取り組む。どの教科も児童の意欲を引き出す工夫をし、学年で身につけるべき力の確実な習熟を目指したい。また、学力調査の分析を基に授業改善を進め検証していくとともに、習熟度に合わせた反復練習を行う。授業やパワーアップタイムで活用力問題にも取り組む。
8	③豊かな心の育成（きれいな心で助け合う子）	**＜道徳授業を中心として教育活動全般を通して道徳性を育成＞** 教育活動で重点項目（3つの心）を意識化する。	道徳の授業と学校生活を関連づけて指導し、児童の道徳的心情（3つの心）を養う。	【満足度指標】 児童は授業や学校生活の中で3つの心を伸ばそうとしている。	授業や学校生活の中で3つの心がのばせた児童の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：道徳教育推進教師 評価方法：児童アンケート 実施時期：7月、12月	B	88.7%	B	89.1%	2学期は「全校体育交歓会」や「川小まつり」において各学年で3つの心に合わせた目標を持つことができた。児童アンケートからも3つの心に対して意識できていることがわかる。また、人権週間には児童会が中心となって「思いやりの風船」に取り組むことができた。3つの心については何年か積み重ねてきたことで、児童も意識できてきていることが児童アンケートからもわかる。	3学期も道徳の授業や普段の生活で3つの心を意識する機会を持たせ、行事に合わせた目標も設定していきたい。
9		**＜自己有用感の高揚と居心地のよい学級づくり＞** 生徒指導の3機能を生かした学級づくり、授業づくりを進める。	学級活動や縦割り活動、行事を通して、自己肯定感を高めたり、達成感をより強く感じられたりすることができるよう、活動内容や振り返りを工夫する。	【満足度指標】 学級活動や縦割り活動、全校行事に積極的に取り組んでいる。	学級活動や縦割り活動、全校行事に積極的に取り組んでいる児童の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：生徒指導主事 評価方法：児童アンケート 実施時期：7月、12月			A	91.6%	2学期は全校体育交歓会や川小まつりなどの全校行事や縦割り掃除を行うことができた。行事を行うにあたって，クラスでの話し合いや練習を通して，児童は達成感を感じ取ることができた。縦割り掃除では，静かに黙々と掃除をしている姿や上級生が下級生の手本となるように丁寧に掃除をしている姿が多く見られた。	3学期は6年生を送る会や卒業式があり，6年生に感謝の気持ちを伝えると共に，次の学年に向けての準備の3学期と捉え，1人1人が自分の役割に責任をもって取り組めるように目標設定していく必要がある。
10		**＜あいさつ、やさしい言葉があふれる校風づくり＞** 進んで自らあいさつできる子を育てる。	児童会を中心にあいさつ運動に取り組み、自分から進んであいさつできる児童を育てる。	【満足度指標】 児童は自ら進んであいさつをしている。	自分から進んであいさつをしている児童の割合 A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：生徒指導主事 評価方法：児童アンケート 実施時期：7月、12月	A	90.1%	B	89.4%	児童会，生活委員会による毎朝のあいさつ運動，あいさつの取り組みにより「自分から」「誰とでも」あいさつができるようになった児童は増えた。また，あいさつ運動をしている高学年の意識も少しずつ上がってきた。しかし，あいさつの取り組みが終わると児童のあいさつに対する意識が少しずつ下がってきたと感じている。	児童のあいさつに対する意識は高いので，それを下げないように児童会、生活委員会の朝のあいさつ運動やあいさつの取り組みを進める。あいさつの取り組みの中で，あいさつの意義なども伝えられるようにしていく。
11	③健やかなたくましい体の育成（たくましい子）	**＜体力・運動能力向上＞** けが防止への配慮、課題克服に向けた取組を行う。	年間を通して，なわとび運動に取り組ませ，体力の向上を図る。	【成果指標】 学期ごとに、学年の縄とびの目標を決め、達成できた児童の割合が80%以上になる。 ・回数　・取り組んだ回数　・技	各学期に、学年の目標を達成した児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	主担当：保健主事 評価方法：なわとびカード 実施時期：6月、11月 1月	D	47.7%	B	75%	前回、学年ごとに取り組んだ回数を成果指数としたが、技カードもともに取り組ませたため、はっきりとした結果が得られなかった。今回は、できた技の個数を学年ごとに目標を立てて取り組ませたことにより、児童の意識が技の練習へと焦点化された。そのため、75%の児童が、学年の目標を達成することができた。課題としては、学年ごとの達成率に差があるので、全体の意識の高まりが必要である。	3学期の「縄跳び旬間」では、8の字に取り組む。昨年度開いた「縄跳び発表会」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となったため、意欲を持続させることは難しい。しかし、グループで取り組む楽しさや達成感、教師の小まめな声かけにより体力向上につながる活動にしたい。
12		**＜健康教育の充実＞** 早寝早起きを重点とした健康な体づくりへの意識を高める。	児童保健委員会の，早寝早起きの取組や学習を通して、規則正しい生活習慣を意識して過ごそうとする児童を育成する。	【成果指標】 各学期の早寝早起き週間で、規則正しい生活習慣を意識して過ごしている児童の割合が80%以上になる。	各学期の朝の早寝早起き週間で、早寝早起きができている児童の割合が A：80%以上　B：70%以上 C：60%以上　D：60%未満	主担当：保健主事 評価方法：早寝早起き取り組みカード点検 実施時期：5月、8月、1月			B	79%	4月の休校中の目標達成率は54．7%と生活リズムの乱れが見られたが、9月になると、78．9%と整ってきた。早起き、朝食、メディア、歯磨き、早寝の5項目に取りくみ、それぞれ76．7%、91．8%、75%、87．9%、65．1%だった。この結果から、家族と決めたメディアルールや寝る時刻が守れていない児童が多いことがわかった。ルールを守るという意識づけやメディアとの付き合い方、睡眠の大切さへの指導を引き続き行っていく必要がある。	冬休み明けには、「心と体のハッピーカード」を使って、生活リズムの確立、メディアルールを守る意識付けに取り組む。また、スクールカウンセラーの下田先生より指導を受けた心を元気にするエクササイズと保健委員児童の発表を収録した動画を生かして、全クラスで体と心の健康の学習に取り組む。
13	⑤家庭・地域との連携（信頼される学校づくり）	**＜望ましい生活習慣と学習習慣の確立＞** 家庭と連携した取組（早寝・早起き・メディア時間や家庭学習強化週間）を行う。	様々なPTA活動や保護者への啓発活動を通じて、家庭での生活習慣・学習習慣確立の重要性を浸透させる。	【成果指標】 生活習慣・学習習慣確立の重要性を十分に保護者に理解させ、家庭生活の中に浸透させている。	懇談やたよりを利用して伝えた生活習慣・学習習慣の重要性を理解し、取り組んでいる家庭の割合が A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：保護者アンケート 実施時期：7月、12月	D	73.5%	D	76%	PTA活動がほとんど行えない状況下では継続した生活習慣の啓発活動には限界がある。早寝早起きの意識の向上や各家庭でのメディア時間のきまりの確立を図るためには、各家庭での意識の向上が欠かせない。今学期は町P連家庭教育委員会のお知らせで児童の実態を知らせたり生活週間確立の啓発を進めてはいたが、まだまだ保護者との連携は十分とはいえない。	早寝早起きにメディアコントロールについては、スポーツクラブや習いごとがある曜日は難しい面もあるが、各家庭でのより規則正しい生活リズムの工夫を啓発していく。メディアの対応については家庭でのルールづくりなどをしっかり進めていけるよう、PTA活動と連動させていく。
14		**＜情報発信の充実＞** 家庭・地域への教育活動の発信を積極的に行い、理解と協力を得る。	学校ホームページや学校だより等による教育活動の発信を充実させる。	【成果指標】 学校ホームページや学校だより等により、学校の教育活動について保護者が理解している。	「家庭への情報連絡や提供が積極的に行われている」と回答した保護者の割合が A：90%以上　B：85%以上 C：80%以上　D：80%未満	主担当：教頭 評価方法：保護者アンケート 実施時期：7月、12月	B	97.3% （但し4＜3）	B	96.0% （但し4＜3）	これまで同様に情報発信を丁寧に進めてきた。全学年のたよりを差異なく発信することにも十分配慮し、教育活動への理解を深められたと感じている。	個々には連絡が不十分だった家庭もあり、担任が抱え込まず組織的に対応できるよう情報共有を図っていきたい。